ビジネス情報における思考力を高めるための発問の工夫

(1) 単元名　表計算ソフトウェアの活用　「ビジネス計算とデータの集計・分析」

(2) 単元の目標

表計算ソフトを利用し、分析するために必要な表やグラフの作成方法を習得するとともに、ファンチャートやＺチャート、ＰＰＭ分析の有意性を理解し効果的な分析方法を習得する。また、財務分析の基本的な知識を身に付け、各種の比率や値の算出方法を習得する。

(3) 単元の評価規準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
| ①ＰＰＭ分析に関心をもち、市場でのポジションからどのような戦略が必要となるか調べようとしている。 | ①分析目的に適したグラフを、理由を明確にして選択することができる。 | ①分析に必要な販売情報を読み取り、表計算ソフトウェアを利用してファンチャートを作成することができる。  ②表計算ソフトウェアを利用して、分析目的に即したグラフを選択することができる。 | ①中長期的な分析に適しているＺチャートの特徴を理解している。  ②関係比率の算出方法について、その計算方法を理解している。  ③損益分岐点による分析方法を理解している。 |

(4) 単元の指導計画と評価計画（６時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 時間 | ○ねらい  ・学習活動 | 評価の観点 | | | | 評価規準（評価方法） |
| 関 | 思 | 技 | 知 |
| |  | | --- | | １ | | 売上を用いた分析１   |  | | --- | | ○ファンチャートは売上の伸び率を明確化するために適したグラフであることを理解するとともに作成方法を習得する。 |   ・商品別伸び率を算出する。  ・商品別売上推移ファンチャートを作成する。  ・作成したファンチャートより商品の伸び率について分析する。 |  |  | ① |  | １　分析に必要な販売情報を読み取り、表計算ソフトウェアを利用してファンチャートを作成することができる。  （ワークシート） |
| |  | | --- | | ２（本時） | | 売上を用いた分析２   |  | | --- | | ○Ｚチャートが複合的な推移や傾向を把握するために適したグラフであることを理解し、それに基づいて活用場面を考える。 |   ・Ｚチャートの作成方法を理解する。  理由付け  ・折れ線グラフを分析し、変化の理由を考える。  ・折れ線グラフの特徴について考えまとめる。  ・Ｚチャートを作成する。  理由付け  ・Ｚチャートから、今後の出荷台数を予測し、その理由を述べる。  ・折れ線グラフとＺチャートそれぞれのメリットを考え、それを理由としてそれぞれの活用場面を考える。 |  | ① |  | ① | ２　中長期的な分析に適しているＺチャートの特徴を理解している。（ワークシート）  ３　分析目的に適したグラフを、理由を明確にして選択することができる。（ワークシート） |
| |  | | --- | | ３ | | 売上を用いた分析３   |  | | --- | | ○ＰＰＭ分析は商品販売を戦略的に分析するためには有効な手法であることを理解する。また、ＰＰＭ分析をするにあたってバブルチャートは有効なグラフであることを理解するとともに作成方法を習得する。 |   ・商品を市場占有率と売上高伸び率によって４つのポジションに分類する。  ・市場でのポジションからどのような戦略をとることになるのかを考えまとめる。  ・バブルチャートを作成し特徴について考える。  ・ＰＰＭ分析グラフ結果からポジションの分類を行う。 | ① |  |  |  | ４　ＰＰＭ分析に関心をもち、市場でのポジションからどのような戦略が必要となるか調べようとしている。（ワークシート） |
| |  | | --- | | ４ | | 財務諸表分析   |  | | --- | | ○関係比率を使った分析の特徴を理解し、分析方法を理解している。 |   ・比率にはどのようなものがあるのかをまとめる。  ・各比率を２つに分類する。  ・分類した理由を考え、グループで意見を交換する。  ・グループごとに意見をまとめ発表する。  ・企業の財務データを分析する。 |  |  |  | ② | ５　関係比率の算出方法について、その計算方法を理解している。  （ワークシート） |
| |  | | --- | | ５ | | 財務諸表分析   |  | | --- | | ○百分率損益計算書を作成することができ、企業の経営状態を分析することができる。 |   ・百分率損益計算書で示されている各比率を挙げる。  ・使用されている分析方法をまとめる。  ・百分率損益計算書を作成する。  ・売上高を基準としていることでどの様なメリットがあるのかを考える。  ・百分率損益計算書を使ったグラフを作成する。 |  | | ② |  | ６　表計算ソフトウェアを利用して、分析目的に即したグラフを選択することができる。  （ワークシート） |
| |  | | --- | | ６ | | 損益分岐点   |  | | --- | | ○損益分岐点による分析方法を理解するとともに、表計算ソフトを利用して損益分岐点のシミュレーションができる。 |   ・売上高の増減と、利益と費用の関連性について考えまとめる。  ・損益分岐点を用いるメリットをまとめる。  ・目標売上高を算出する。  ・表計算ソフトを利用して損益分岐点をシミュレーションする。 |  |  |  | ③ | ７　損益分岐点による分析方法を理解している。  （ワークシート） |

(5) 本時の内容

ア　本時のねらい

Ｚチャートが複合的な推移や傾向を把握するために適したグラフであることを理解し、それに基づいて活用場面を考える。

イ　本時の展開（第２時）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準（評価方法） |
| 導入 | １．本時の学習課題を確認する。 | ・本時で取り上げるデータについて確認する。 |  |
| 展開 | ２．月別の出荷台数を表す折れ線グラフを作成する。   |  | | --- | | 予想される生徒の反応  折れ線グラフからは、月々の動向について簡単に読み取ることができる。  年度間の比較についても出荷台数の多い年、少ない年を読み取ることができる。 |   ３．ペアで意見を交換させたのち、各自ワークシートに考えをまとめる。  ４．Ｚチャートを作成し、ペアで意見交換する。   |  | | --- | | 予想される生徒の反応  Ｚチャートでは、2013年度はほぼ横ばいで後半に若干伸びがあり、2014年度は、移動合計が右下がりであることから大きく減少していることが分かる。 |   ５．折れ線グラフとＺチャートのメリットから、それぞれの活用場面を考えワークシートにまとめる。 | ・グラフ作成の手順について説明を行う。   |  | | --- | | 教師の発問  今まで学習したグラフの中から、パソコンの出荷台数の推移を表すグラフを作成し、そこから読み取れるデータを分析してください。分析については、なぜ増加や減少したのかその理由も考えましょう。さらに、今後の出荷の傾向について予測してみてください。（理由付け） |   ・ワークシートにまとめる際、理由も記入するように指示する。  ・Ｚチャートの基となる表を作成するとき、累計と移動合計を計算させる。   |  | | --- | | 教師の発問  ２年分のグラフから、今後の出荷台数の傾向を予測してみましょう。また、その理由を調べワークシートにまとめましょう。（理由付け） |   ・中長期的な視点を特に考えさせる。   |  | | --- | | 教師の発問  折れ線グラフとＺチャートを比べ、それぞれのメリットについて考えてみましょう。また、それぞれのグラフは、どのような場面で用いると効果的か考えましょう。  （理由付け） | | ２　中長期的な分析に適しているＺチャートの特徴を理解している。  （ワークシート）  ３　分析目的に適したグラフを、理由を明確にして選択することができる。  （ワークシート） |
| まとめ | ６．本時の学習内容を振り返る。 | ・本時の内容について、自分の考えを整理しまとめさせる。 |  |